

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 43014 単位数 : 4

科目名	日本経済史	科目責任者	神立 孝一
課題と試験担当教員	神立 孝一		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CECON351		

■ 科目概要

日本における経済社会が、どのように成立していったのか、また、人々の経済生活はいかなるものであったのかを考えてみようというのが、本講義のテーマです。具体的な歴史的事実を冷静に見つめることからはじめ、そこから理解していく姿勢を身につけるといふことも、テーマの一つにしたいと思います。

■ 到達目標

現代の問題意識から歴史を見つめ、そこから未来への指標を見出すことが、本来の歴史学の目標といえます。日本経済史もまたその一分野としての使命を担っており、日本の経済発展の理由と、そこから生じた様々な問題を考えてみたいのです。そうした視点を身につけることが、本講義の到達目標となります。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
ガイダンス、ならびにイントロダクション	1、歴史を学ぶ意義 2、経済史とは何か 3、経済史研究の対象と視点
近世の経済を学ぶ	1、史料の読み方 2、史料批判 3、近世の農民経済の実態（その1）
近世の経済を学ぶ	近世の農民経済の実態（その2）
近世の経済を学ぶ	近世の年貢システム
近世の経済を学ぶ	近世の経済、特に農村・農民の経済がどのようなものであったのかを、まとめます。
近世から近代への移行	近代における近世の残像について検討します。
近世から近代への移行	統一的貨幣供給の実現と近代租税制度への移行について説明します。
近代の経済システム1	経済共通基盤の整備、特に近代国家統合と市場経済と貯蓄＝投資連結機構の形成について考えます。
近代の経済システム2	近代の海運と陸運ならびに在来部門と貿易の拡大について説明します。
近代の経済システム3	農業の成長と再編について考えます。
近代の経済システム4	綿業・絹業の成長と再編をつうじて、明治前期の工業化を概観しましょう。
近代の経済システム5	日本の近代化の経済的特徴について考えてみましょう
近代の経済システム6	1920～30年代の日本経済について説明します。
近代の経済システム7	戦間期から戦後への移り変わり、この時期の特色を考えてみましょう

学習範囲 該当する章など	学習内容
原始時代の社会と経済ならびに古代社会の経済	原始社会と古代社会の特色と経済の関連について学びましょう。
中世社会の経済	荘園制度と封建制度を理解して、中世における経済について考えてみてください。
近世社会の経済 1	幕藩体制の特色について学びましょう。
近世社会の経済 2	商品経済の発展を、生産と流通という二つの面から総合的にとらえ、その実態を把握してください。
近世社会の経済 3	幕末期の経済について考えます。特に開国によって開始された、海外諸国との貿易とそれによって生じた様々な現象を考えます。
近代日本の展開 1	明治維新について考えてみましょう。
近代日本の展開 2	徳川時代の封建的制度の改廃と新たに設定された近代化政策の関連について考察しましょう。
近代日本の展開 3	近代化政策の推進が、日本の社会にどのような影響を及ぼしたのか、という視点から学んでみましょう。
近代日本の展開 4	近代産業の発足と産業革命について考えます。
近代日本の展開 5	資本主義が発達する前提となる流通組織の充実と工業化の進展を考察しましょう。
近代日本の展開 6	資本主義の発達、日本の農村社会をどのように変えていったのかを把握しましょう。
近代日本の展開 8	財閥と明治後期から進展した社会運動。そして戦争経済へと突入していった日本の経済を学びます。
戦争経済の崩壊	昭和期に入り戦争経済を推進していった日本の崩壊過程と、資本主義の債権について考えます。
戦後の民主化	日本経済の民主化と資本主義の再建について考察しましょう。
経済の成長	戦後日本の高度経済成長とその後の経済を考えます。
試験	講義内容から出題します。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	<科目試験> 試験範囲の内容をしっかりと復習しておいてください。
レポート	レポート課題については、教科書をしっかりと理解することが大事です。重要な学術用語とその概念を把握することに主眼を置いています。日本経済の歴史的特徴を考えることが肝要です。

■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：日本経済史
著者名：関順也
出版社名：創大出版会
出版年：昭54.4
版：初版
刷：
ISBN：978-4-86302-080-1

■ 参考書

■ 履修上のアドバイス

固定概念にとらわれず、史料から読み取れる歴史的事実をしっかりと把握すること。また、統計資料などもその意味するところを考察し、日本経済の歴史的発展の特色を理解することが重要です。

■ 自習時間

最低1時間は、各種参考資料を読んでください。

■ 担当者のプロフィール

本学経済学部教授。博士（経済学）。専門は、近世農村経済史。2010年から学部長、2013年から副学長補を兼任。本学4期の卒業生。